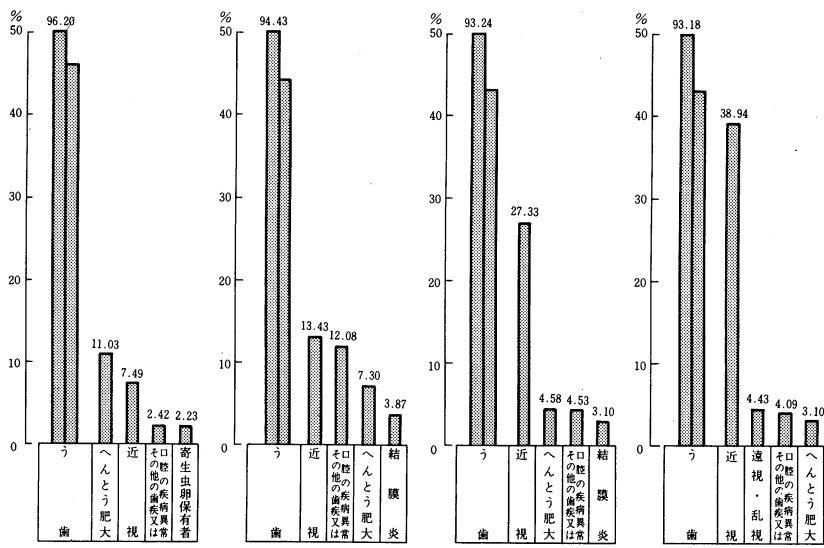


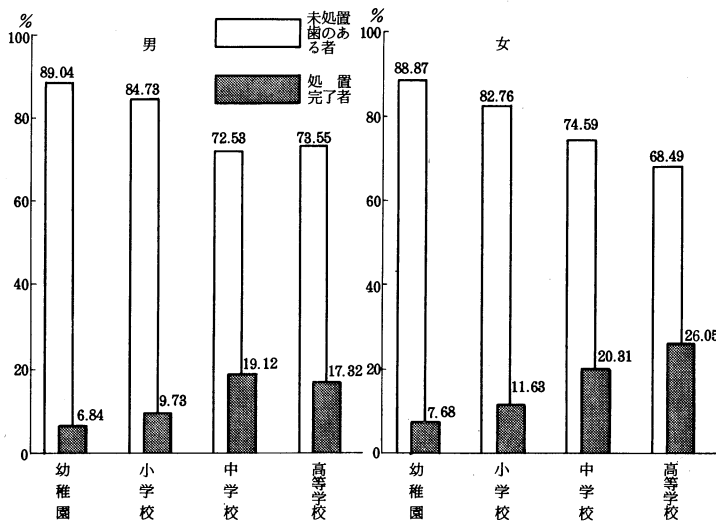
(図6) 学校種別にみた主な疾病異常



(注) 「その他の歯疾又は口腔の疾病異常」とはう歯以外の歯疾、例えば歯ざん炎、歯そうのう歯、不正こう合等の疾患である。

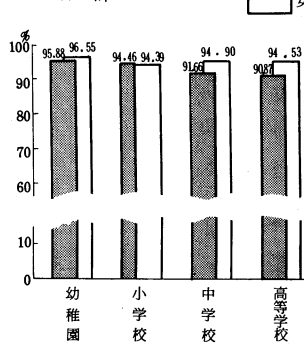
(図7-1) う歯の被患率

(1) 処置完了者・未処置歯のある者

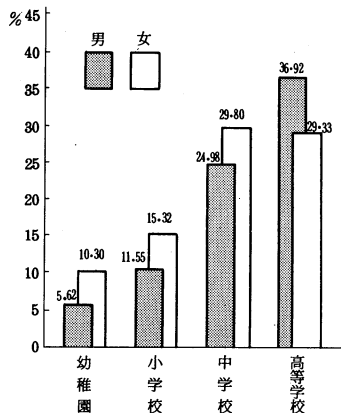


(図7-2) う歯の被患率

(2) 未処置歯のある者と処置完了者の計



(4) 本県と全国の主な疾病異常の比較
 本県と全国(昭和四十九年度)の主な疾病異常を比較すると、本県・全国とも歯と近視が高い率を示している。特に本県の歯の被患率は、幼稚園、小学校、中学校に至るまで全国平均を上回っている。(図9)



(図8) 近視の被患率

近視の被患率は幼稚園から小学校・中学校・高等学校になるにつれて高くなっており、男女あわせた被患率では幼稚園七・四%、小学校一三・四三%、中学校二七・三三%、高等学校三八・九四%となっている。
 これを男女別にみると、高等学校を除いては女子の被患率が高く、幼稚園の四・六八%、小学校三・七七%、中学校四・八二%女子が男子を上回っている。また小学校から中学校、中学校から高等学校と増加の幅にも大きな開きがみられる。(図8)

校種別とも、九〇%を越え、近年全国的に増加の傾向にある。
 これを男女別にみると、幼稚園が最も被患率が高く、女子が〇・六七%男子を上回っている。
 中学校及び高等学校では女子の被患率が高く、小学校では男子の被患率がわずかに高い。小学校では〇・〇七%

男子が女子を上回っている。中学校では三・二四%、高等学校では三・六六%それぞれ女子が男子を上回っている。また処置完了者の割合をみると、高学年にいくにつれ高くなってきているが最も高い高等学校でも、二六%に過ぎない。(図7-1・2)